

国語やバイよ！～ものの見方・考え方を育てる国語の授業～ 2023/03/10 アボウドリ 信天翁 記

東京文芸研学習会(BMS・4月例会)のご案内

—Bungeiken Metropolis Seminar—April Fools`Day じゃないよ。4.1 全員集合！

**BMS 4月例会は、関東地区
「国語の教室」に合流します。
皆様の参加をお待ちしています。**



© ODEN 2013

長谷川さん、佐藤さん、山中さんとマラソン愛好家が多い東京サークルですが、東京マラソンがあった3月5日(日)、コース近くの学習会会場の市ヶ谷周辺も多くの人出がありました。今回は、田形智さん(静岡県富士市小学校)による「**お手がみ**」(教育出版 1 年)と、泉川奈津子さん(江東区小学校)「**たぬきの糸車**」(光村図書 1 年)の報告でした。

田形報告では、鍛えられた学級の子どもたちの発言が目立つ全授業記録の報告。1 年生の子どもたちの、おかしさとやさしさが一体になったユーモア体験の成立が見事でした。役割読み(劇化)やゆさぶり発問の授業の〈てだて〉が、子どもたちの切実な共同体験をうながし、子どもたちの個性が光る良質な報告でした。典型化に課題を残しながらも、1 年生でも「お手がみ」の授業が可能であることを実証しました。

泉川報告では、恩返し譚も含めて〈おかみさん〉と〈たぬき〉の心の交流とする従来の読みに対して、対象人物である〈たぬき〉の気持ちを考えさせる混乱があったものの、好奇心旺盛な〈たぬき〉の人物像（視点と対象の相関関係）に焦点化した意欲的な BMS 例会デビュー報告でした。

教師にとっても新学期は心弾む季節です。いい授業をしたいと願っている方、国語の授業づくりに悩んでいる方、深い学びをめざしている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地のサークル例会が開催困難なサークル会員の方々……の参加をお待ちしています。

4月例会は以前 4 月 2 日（日）と予告していましたが、4 月 1 日（土）関東地区サークル合同の「国語の教室」に合流・変更します。完全オンライン方式での実施となります。申し込みについては、下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。また、可能なサークル会員は「国語の教室」本部の精華小学校（横浜市）に 8 時 30 分ご参集いただければ助かります。参加費：500 円（全講座資料をデータでお渡しします。）

※参加申し込みは [https:// kokugo-no-kyoshitsu-kanto.peatix.com/](https://kokugo-no-kyoshitsu-kanto.peatix.com/)から

①インフォメーション

▼文芸研第 18 期青年学校月例会（オンライン）3 月 11 日（土）19 時 30 分～21 時
学級じまい・学級びらき・授業びらきに読み合いたい詩 詳細は文芸研 HP をご覧ください。

▼文芸研中・高部会学習会（オンライン）4 月 21 日（金）20 時～21 時 30 分 詳細は文芸研 HP をご覧ください。

▼八王子文芸研基礎講座（オンライン）5 月 12 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分
講師：上西信夫 詳細は文芸研 HP をご覧ください。

▼文芸研実践研究会 6 月 3・4 日 神戸市県民会館 山口大会全レポート検討

▼文芸研 57 回山口大会 7 月 29・30 日（山口市）県教育会館ほか

▽「文芸教育」（西郷竹彦創刊・文芸研編・新読書社刊）**最新刊 129 号 特集「新年度のスタート！国語の授業づくりで大切にしたいこと」** 128 号 特集「協働的な学びって何だ？」／127 号 特集「どうしてですか？『書くこと』の指導」／126 号 特集「教室に安心と笑いを」／125 号特集「『個別最適な学習』にどう向き合うか」／124 号 特集「どうなる？ どうする？ 国語の授業」／123 号 特集「新学期 子どもたちと読みたい詩・絵本」／122 号 特集「文芸教育は役に立たないのか」／121 号 特集「私たちの考える『主体的・対話的で深い学び』」／120 号 特集「学級づくりと授業づくりースタンダードを越えて」 好評発売中！ 各号 1500 円＋税 バックナンバーあります。年間定期購読をお願いします。例会でも用意します。

▽光村版・**新**教科書指導ハンドブック（学年別）発売中／新読書社より各学年 1700 円

＋税 セット割引有／この学年でどんな〈ものの見方・考え方〉を育てるかの観点で編集
▽文芸研授業シリーズ好評刊行中！ 第1弾「たぬきの糸車」（新読書社）・第2弾「一
つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらぐつの中の神様」・第5弾**新刊**「サーカ
スのライオン」／教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考にでき
て、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各1000円＋税



📷辛夷（コブシ） 花辛夷空青きまま冷えてきし（長谷川權）

「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば、ウクライナ、世相を詠む

一日に15分遅れる時計末っ子みたいにかわいがられる（富山／松田梨子）
くじら座の尾ほどの拗れ（こじれ）保ちつつ思春期の子はドアの向こうへ（奈良／山添聖子）
人生にタイバを求められている子どもは子どものままでいいのに（東京都／窪田貴子）
難病と二十年間闘う娘病院じゃないとこへ行きたい（富士宮市／脇本俊夫）
正月の島風は子らの笑い声赤子の泣き声乗せて華やぐ（山口県／庄田順子）
共通テスト終えたる孫の眠りいる車に流るカーペンターズ（中央／前田良一）
オリオンは明るく息はあたたかく二十歳の吾子と夜汽車待つ駅（南相馬／水野文緒）
コロナ禍の登校班こそ寂しけれ今日は二人で出発したり（酒田／朝岡剛）
教え子をエール静かに送り出す寒の雨降る試験会場（小城／福地由親）
我が子らは校歌一度も歌えずにこの学舎をまもなく巣立つ（白井／関根孝明）
廃校に一人残され本を読むさびしからずや庭の金次郎（船橋／清水渡）
〇×を秒で決めつつ赤ペンのぬくもり恋しいデジタル採点（ふじみ野／片野里奈子）
幼児をコートの奥に仕舞い込み有袋類となる大寒の朝（江別／長橋敦）
まつさらな革の匂ひを嗅いでみるけふ届きたる児のランドセル（神戸／池田雅一）
上履きの二足並びて干されたり平和とはこんな日曜の朝（奈良／山添聖子）
眠れない夜には火災報知器の小さな光はボラリスとなる（奈良／山添聖子）
「実験は百に一つも当たればいい」師の口癖の今に偲ばる（東京都／岡純）

子を宿し一人称のわたくしにふと違和感をおぼえはじめる（川崎／小林冬海）
吾娘（あこ）は書く「売られたケンカは全部買う」道徳ノートの「短所」の欄に（北九州／福吉真知子）
お互いに兵士は死ねど子どもらが死んでゆくのはウクライナばかり（五所川原／戸沢大二郎）
手土産が軍備拡大わが国の首相訪米歓待受ける（大和郡山／宮本陶生）
戦場を駆ける兵士と箱根路を走る若きの正月二日（宮崎／木許裕夫）
式典に酒飲み暴れいる二十歳（はたち）戦場に銃構える二十歳（観音寺／篠原俊則）
ヤマトタケルも歌に詠みたる平群の丘に太陽光パネルが（京都／日下部ほのの）
パネルなら二百ワットも発電し役立った筈なる日向ぼこ（横浜／一石浩司）
鹿渡（かど）と云う地名残して干拓地大潟村に雪降り続く（つくば／藤原福雄）
この我に戦死の伯父と空爆死の伯母ある事実山茶花朱く（霧島／秋野三步）
ころがって煮ころがってうまくなれ息があってる小芋とわたし（新潟／太田千鶴子）
拍手しか聞こえなかった館内に戻り始めた人間の声（八尾／水野一也）
白杖の人の姿勢の正しさよ駅の人中を真直ぐに行く（水戸／檜山佳与子）
気散じに出てきただけの駅ビルに糖分塩分控え本買う（豊橋／滝川節子）
原発はよくて焚き火はダメという焼き芋よりもまずは国家と（西条／村上敏之）
出来ることだんだん減ってしないことどんどん増えて喜寿を乗り切る（四日市／園田信子）
難波江や迷ひ鯨が潮を吹く（秦野／加藤三朗）
兜太の忌身体全部を俳句にす（八尾／宮川一樹）
生む力身籠る力寒卵（茅ヶ崎／清水吞舟）
しんしん四尺ごうごう五寸雪の深さを耳で知る会津（佐久／五十嵐芳孝）
鹿狩りのドローンが飛んでふと思う戦争の事ウクライナの事（新潟県／涌井武徳）
横浜に米軍部隊が配備さるもはや新しい戦前なのか（横浜／村松千津子）
居間で見える戦車塹壕泣く老女 参謀総長の勲章の綺羅（北九州／松尾あけみ）
双葉町で十二年振りの「ダルマ市」避難地からの町民で賑わう（いわき／守岡和之）
賃上げのニュースは嬉しされど憂し大手と中小格差広がり（横浜／人見江一）
戦争と戦争までのつかの間を平和と言ふならあまりに悲しい（三鷹／山縣駿介）
ハルキウの「ラウダン通り」よ平和なれロシアの学者の名であればこそ（柏／堀千賀）
この脳に記憶は在るのだ問題はそれを取り出す路のないこと（浦安／中井周防）
この国が軍拡に舵を切る最中「週刊朝日」休刊決まる（磐田／白井善夫）
独裁者いずれも同じ目をしてる人の心がすんと抜けた（菊池／神谷紀美子）
原発は死者が一人も出てないと言われて怒るこの浜通り（南相馬／佐藤隆貴）
戦ふは祖国と祖国菜の花忌（東村山／新保方樹）菜の花忌…司馬遼太郎 2.12
髪切ったね言葉が大事春近し（甲府／藤巻嘉秀）
寂しさも味わいとして一膳の箸のころき日ふとおもたき日（福島／美原凍子）
戦争で敵の国民のみならず自国の兵も殺すプーチン（三郷／木村義熙）
戦中に生まれ戦後を長く生き今日戦前を生きる辻褄（長野県／千葉俊彦）

眠られる夜は羊をさがせども戦車が一台戦車が二台(大和／澤田睦子)
「戦わないために今闘っている」おきなわ婆（おばあ）の眼差し揺るがず（横浜／角田英昭）
「老獺」と「老咳」の間に抜け目なく「老害」居座る『新明解辞典』（札幌／田巻成男）
プーチンはもつと怖いぞ雪女郎（佐渡／安藤文）
雪を掻くめざすは夏の甲子園（栃木県壬生町／あらみひとし）
見た目には大人しそうな首相だが機を見て敏で豹変する（川崎／小島敦）
専制のミャンマー国軍支援して武器供与する二大国あり（町田／高梨守道）
ばかやろうこんちくしょうの人でなし遺影の夫に呟いてみる（春日部／横手智恵）
もどり来ぬ震災前の仙石線しおかぜ入りし早春の車窓（まど）（仙台／沼沢修）
薄紙をはぐように君が削りゆく伎芸天像まなじり穏（おだ）し（大阪／多治川紀子）
サハリンのニシンが春を告げに来る律義に今年も国境超えて（宇都宮／手塚清）
ゼレンスキーＴシャツ売っている国と戦争に命奪われる国（一宮／園部洋子）
ミサイルのえぐりし集合住宅に冷蔵庫開（あ）きてキャベツの見ゆる（奈良県／吉井邦子）
蠟梅（ろうばい）に菜の花片喰（かたばみ）黄水仙春は黄色にあふれていたり（市川／中沢正平）
猫のケンカみたいな声を出している古い冷蔵庫どうかがんばって（東京都／上田結香）
過ちをまた繰り返し猫の恋（富士／村松敦視）←あやまちはくりかへします秋の暮（三橋敏雄）



📷恋猫の皿舐めてすぐ鳴きにゆく（加藤楸邨）

今後のBMS予定 期日が変則ですのでご注意ください。

- 📅4月1日（土）9時～12時 オンライン「国語の教室」に合流（本部：精華小）
- 📅5月3日（水）9時～12時 全国教育文化会館エデュカス東京（麹町）6A会議室
- 📅6月10日（土）9時～12時 全国教育文化会館エデュカス東京 6A会議室

【東京文芸研学習会（BMS）連絡先】

上西信夫 ☎→nobu.uenishi@outlook.jp 📞→080-3253-4742